

水稻

<育苗箱の準備>

昨年、苗立枯れ病の発生した育苗箱は、必ずきれいに洗った後イチバン乳剤の希釈液(1000倍)に漬け、すぐにあけて風乾して下さい。

<塩水選>

水10リットルに、下記の通り硫酸か食塩を入れ、その後水稻種子を入れて、よくかき混ぜる。浮いてきたもみは取り除く。塩水選後は、もみの塩分をよく洗い流す。

種類	比重	食塩	硫酸
うるち	1.08	1.1kg	1.4kg
もち	1.06	0.8kg	1.0kg

<種子消毒>

24時間種子浸漬後、半日ほど日陰で乾燥させ、薬剤を定着させる(もみの水洗いは絶対に行わない)。

消毒は、容器にもよるが、もみ種4kgに対して薬液は10リットル程度用意してください。薬液の温度は、10℃以下・30℃以上は避ける。

薬剤名	希釈倍数	水20Lに対して薬剤の必要量
テクリードCフロアブル	200倍	100cc
スミチオン乳剤	1000倍	20cc

<浸種(芽出し)~育苗>

①浸種と催芽

発芽を揃えるため、積算温度 80~100℃(1日の平均水温×日数)を目標に浸種する。
※種子消毒の24時間は含まない

(例) 水温 20℃の場合

20℃×4日間で80℃となる。

※ただし、水温が上がりすぎると酸素不足になる可能性があるため、水が濁ってきたら静かに水を入れ替える。

もみがハト胸で芽が1mm程度になれば、日陰に干して水を切り、は種作業に入りましょう。

②は種と覆土

は種は薄まきに努め、催芽もみで1箱 180gまでにとどめてください。
※乾もみ種 150gを水につけ、発芽させると約 180gになる。

播種作業は、床土(下の培土)には、たっぷり灌水するが、は種・覆土後は灌水しない。
※は種覆土後に灌水すると、根が上に張ってしまうので注意しましょう。

③出芽温度管理

出芽には「積み重ね出芽」と「平床出芽」があります。

「積み重ね出芽」は 28~30℃で3日間程度育苗箱 8~10枚を積み重ね、シートやむしろで覆い、昼夜 30℃以上にならないよう管理する。

「平床出芽」は

昼間 30℃以下、夜間 15℃以上で6日間程度育苗箱に保温・遮光する物を掛け、平たくそのまま並べる。

積み重ね出芽に比べると若干日数がかかる。

最初の水管理に注意が必要です。

※30℃以上の高温で、もみ枯細菌病が発生しやすく、また、温度不足で出芽に長時間かかり過ぎると、苗立枯病が発生しやすいので温度管理に注意しましょう。

④緑化から硬化

緑化は出芽が揃った後、広げた寒冷紗で覆い直射日光をさけるが、3~4日後から極端な低温以外は、はずして硬化につとめる。

※長く被覆していると苗が徒長・軟弱になるので注意しましょう。

<近年、温暖化(特に夏期高温)により登熟不良が生じ、白未熟粒が増加しています。>

圃場に地力があるのは、もちろんの事、鉄とケイ酸を施用(ミネラルG、けい酸加里プレミア34等)し、水稻の根を守り、稲体を強くし、稲に体力をつけましょう。

鉄分は、葉緑素の生成に必要な微量元素であるとともに、水田土壌中に発生する有害な硫化水素を無害化したり、水稻の根腐れを防ぐなど、稲作において重要な養分です。

イネ科作物では、特にケイ酸を施用することにより耐倒伏性や受光体勢の向上、病害虫抵抗性の向上などの効果が知られています。

<代かき作業>

代かきは、雑草の発芽や有毒ガス(硫化水素)の発生を防ぎ、土壌を整えるなど、田植とその後の水稻の栽培管理を順調に行うために大切な役割があります。

田の水を少なめで代かき作業を行い、田面に高低差が生じないように行いましょう。

水量が多すぎると、圃場の均平がわかりにくい作業がうまくいきません。

また、わら・前作の残渣等のすき込みが難しくなります。

過度の代かきは、作土全体が泥状になり、土壌還元の促進や表層剥離の原因となります。



たまねぎ

4月も引き続き、病害の発生に注意しましょう。圃場を良く観察し、予防(早期)防除に努めましょう。

<べと病>

葉に長楕円形のやや大型の黄白色の病斑ができるが、病斑の健全部との境目は不明瞭で、多湿のときには病斑上に灰白色または暗紫色の霜状のカビを生ずる。

温暖で、曇雨天の日が続くと多発しやすいので、水はけの悪い圃場や例年発生の多い圃場では排水をよくするとともに、予防(早期)防除に努めましょう。

<白色疫病>

葉の中央部に油浸状緑色不整形の不明瞭な病斑が生じ、のち白色に変わり病斑から折れて下垂、枯死する。降雨後、圃場の低湿地を中心に集団的に発生することが多い。早生種では、2月中下旬が暖かく多雨であれば急にまん延が始まる。

中晩生種では、3月中下旬から春雨が続くと急激なまん延をする。

たまねぎ『べと病』・『白色疫病』両方に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
リドミルゴールドMZ	500~1000倍	7日前	3回
ザンプロDMフロアブル	1500~2000倍	7日前	3回
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前	3回
ベトファイター顆粒水和剤	2000倍	7日前	

<軟腐病>

初め下位の葉鞘部が灰白色~淡褐色に変わり、後に軟化して葉は倒伏する。さらに、りん茎部に達し、表層から軟化腐敗して、悪臭を放つ。貯蔵中や輸送中にも発生する。

病原菌は土壌中に長く残存する。降雨時に葉に飛散したり、風雨による傷口や食害根から感染する。

※雨の多い年に発生が多い。また、収穫期に雨にあえば、収穫後の発病が多くなる。

たまねぎ『軟腐病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
カスミンボルドー	1000倍	14日前	5回
スターナ水和剤	1000倍	7日前	5回
バリダシン液剤5	500倍	3日前	5回

豆類

実えんどうの防除

<うどんこ病> 白色粉状の斑点を生ずる

実えんどう『うどんこ病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
トリフミン水和剤	3000~5000倍	前日	5回

<ハモグリバエ> 葉肉部に白いすじ模様ができる

実えんどう『ハモグリバエ類』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
プレバソンフロアブル5	2000倍	前日	3回
アフーム乳剤	2000倍	3日前	2回
グレーシア乳剤	2000~3000倍	前日	2回

えだまめの防除 苗立枯病・茎疫病・黒根腐病・ネキリムシ類・アブラムシ類等

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
クルーザーMAXX	乾燥種子1kg 当り8mlの原液※	は種前	1回

※塗沫処理(ビニール袋に入れてふる)

農薬使用の基本は、『農薬ラベルの確認・使用方法を守る』『周辺への飛散防止対策をする』『農薬の管理、散布器具の整備を徹底』農薬散布をした際は、その都度生産履歴(防除日誌等)に正確に記帳しましょう。

2021年 4月出荷暦							2021年 5月出荷暦						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1	2	3 ※防除済							1 ※防除済
4	5	6 ※防除済	7	8	9	10 ※防除済	2 ※防除済	3 ※防除済	4	5	6	7	8 ※防除済
11	12	13 ※防除済	14	15	16	17 ※防除済	9	10	11 ※防除済	12	13	14	15 ※防除済
18	19	20 ※防除済	21	22	23	24 ※防除済	16	17	18 ※防除済	19	20	21	22 ※防除済
25	26	27	28 ※防除済	29	30		23	24	25 ※防除済	26	27	28	29 ※防除済
							30	31					

5月初旬の連休の出荷予定は、品目によって変更になる可能性がありますので、別途ご確認ください。

<灰色腐敗病>

下葉から2~3枚目の葉が変色・軟化・下垂する。

地際から下の球部は赤褐色に変わり、灰色粉状の菌の塊ができる。

たまねぎ『灰色腐敗病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ベンレート水和剤	2000~3000倍	前日	6回
スミレックス水和剤	1000倍	前日	5回
ロブラール水和剤	1000倍	7日前	3回
アフエットフロアブル	2000倍	前日	4回
パレード20フロアブル	2000~4000倍	前日	3回

そらまめの防除

<赤色斑点病> 褐色の斑点を生ずる。

そらまめ(未成熟)『赤色斑点病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
ロブラール水和剤	1000倍	前日	3回

<さび病> 下葉表面に退緑色の小斑点ができ、盛り上がって褐色になる。

そらまめ(未成熟)『さび病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
アフエットフロアブル	2000倍	前日	3回
アミスター20フロアブル	2000倍	3日前	3回

未成熟豆類のアブラムシの防除

豆類(未成熟)『アブラムシ類』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
アディオン乳剤	3000倍	14日前	3回
モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	7日前	3回
スタークル顆粒水溶剤	2000倍	7日前	2回